

2021 年 3 月 12 日

東洋紡バイオテクノロジー研究財団 2020 年度研究助成贈呈式を実施

公益財団法人 東洋紡バイオテクノロジー研究財団(所在地:大阪市北区、理事長:津村準二、以下「当財団」)は、2 月 25 日(木)、東洋紡本社(大阪市北区)にて、2020 年度の研究助成贈呈式を実施しました。本年度は、バイオテクノロジー分野の若手研究者 5 人に対し、総額 2,750 万円の研究助成金を贈呈します。



オンラインで開催された贈呈式

当財団は、東洋紡株式会社(本社:大阪市北区、代表取締役社長:檜原誠慈、以下「当社」)の創立百周年を記念し、1982 年に設立。バイオテクノロジーの分野において研究助成を行い、その成果を通じて社会に貢献することを趣旨としています。海外留学を助成する「長期研究助成」の受贈者は、本年度を含めて累計 211 人となり、その多くがバイオテクノロジーの研究や教育の第一線で活躍しています。

新型コロナウイルス感染防止のため、初めてオンラインで開催された 2 月 25 日の贈呈式には、当財団より理事長の津村準二(当社名誉顧問)、選考委員長を務める近藤滋理事(大阪大学大学院生命機能研究科教授)らが出席。受贈者 5 名に対して、留学先での研究に向けた応援の言葉が贈られました。

理事長あいさつ

当社のバイオ事業は、レーヨンの原料であるパルプの廃液処理に関する研究から始まりました。その後、診断薬用酵素や遺伝子解析技術へと発展し、今では主要事業の一つとなっています。受贈者の皆さまには、当財団の助成金を少しでも活用し、充実した留学生活を送ることで、バイオテクノロジーの発展に貢献する研究者となることを切に願っています。

長期研究助成受贈者一覧

氏名	所属	留学先	研究テーマ
石田 啓 インダ サトシ	東京大学大学院 理学系研究科	The University of Texas at Austin	新規翻訳伸長因子の創出による 高効率特殊アミノ酸翻訳合成法の確立
大石 浩輝 オオイシ ヒロキ	大阪大学大学院 生命機能研究科	University of California, Berkeley	解剖学的手法による乳幼児期の視覚経験が 顔認知機能の発達に及ぼす影響の解明
岸本 沙耶 キシモト サヤ	理化学研究所 生命機能科学研究センター	New York University	細胞内酸化還元状態に応答した 寿命制御メカニズムの解明
藤野 尅至 フジノ タケシ	東京大学 医科学研究所	Memorial Sloan Kettering Cancer Center	RNA 結合蛋白質 RBM39 を標的とした 急性骨髄性白血病の新規治療法の開発
米澤 大志 ヨネザワ タイシ	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	Baylor college of Medicine	造血器腫瘍原因遺伝子 NPM1c の腫瘍制御 機構の解明および NPM1c を直接標的とした 新規治療薬の開発

受贈者コメント

(石田 啓さん)

翻訳反応に用いる翻訳伸長因子を標的として、非天然のアミノ酸を効率よくタンパク質へ導入すべく研究をしています。長期的な目標として、創薬開発にも応用できるような基盤技術を確立したいです。

(大石 浩輝さん)

視覚情報の処理能力の個人差が、脳のどのような構造に依拠しているのか研究をしています。留学先では、サルを対象にして、顔情報の処理と脳構造の対応について詳しく調べたいと考えています。

(岸本 沙耶さん)

寿命や老化、ストレス耐性に関する研究を続けています。これまで個体レベルでの生命現象をメインに扱ってきたので、留学先では細胞内での活性酸素の働きなど、分子レベルでの研究にも注力します。

(藤野 尅至さん)

白血病や骨髄異形成症候群の治療法について研究しています。1884年に開設した歴史あるがんセンターにおいて、RNA 結合タンパク質を標的とした白血病に対する新しい治療法の開発を目指します。

(米澤 大志さん)

タンパク質の分解機構を応用した造血器腫瘍の創薬などを手掛けています。留学を通じて、NPM1c という原因遺伝子を直接標的とした治療薬の開発に取り組み、がんの予防に貢献したいです。

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東洋紡バイオテクノロジー研究財団

事務局 大野

電話:06-6348-4111 FAX:06-6348-3696

E-mail: bio_fund@toyobo.jp

<https://www.toyobo.co.jp/biofund/>